

104-183

問題文

前立腺肥大症の病態及び治療に関する記述のうち、正しいのはどれか。1つ選べ。

1. 前立腺の外腺部分が肥大し、排尿障害を起こす。
2. 前立腺肥大症は、前立腺がんへ進展する。
3. 前立腺特異抗原(PSA)は、前立腺肥大症の確定診断に有用である。
4. タムスロシン塩酸塩を治療に用いる場合は、起立性低血圧に対する注意が必要である。
5. ブチルスコポラミン臭化物は、前立腺肥大症による排尿障害の改善に有用である。

解答

4

解説

選択肢 1 ですが

前立腺肥大症は「内腺」部分の肥大です。「外腺」ではありません。よって、選択肢 1 は誤りです。

選択肢 2 ですが

前立腺肥大と前立腺がんは関係ありません。尿の出が悪くなる等、症状は似ています。よって、選択肢 2 は誤りです。

選択肢 3 ですが

PSA 値は「確定診断」には有用とはいえません。前立腺炎や前立腺がんなどでも上昇する値です。よって、選択肢 3 は誤りです。

選択肢 4 は妥当な記述です。

タムスロシンは α_1 受容体遮断薬です。

選択肢 5 ですが

ブチルスコポラミン（ブスコパン）は、4 級アンモニウム塩である、抗コリン薬です。抗コリンなので、尿閉方向に作用します。よって、選択肢 5 は誤りです。

以上より、正解は 4 です。

類題

参考